

2014 年度外国語コンテスト英語部門 講評

2014 年度の外国語コンテスト英語部門は、11 月 20 日（木）の午後 2 時から、審査員に法学部のジョン・ハミルトン先生と、短大のローラ・リー・クサカ先生をお迎えして開催されました。

開催 20 回目にあたる今年度は、応募 7 名、最終的には予備審査を経て 6 名の参加者が自作のスピーチを披露してくれました。

また、今回の審査項目は昨年同様、内容、文法、発音、パフォーマンスでしたが、発表時において、原稿の読み上げは不可（メモ程度の持ち込み・参照は可）、聴衆とのアイコンタクトを重視し、暗誦を原則としました。「聴衆に語りかける」という部分を大事にするために導入したのですが、参加者にとってはやや難しかったかもしれません。

入賞した皆さんは、暗誦の部分も含めて、「伝わる」スピーチになっていたと思います。1 位の丸山敬弘君（国コミ）は、アメリカでの留学生活から学んだことを自身の失敗談を交えながら、ネイティブと間違えるほどの発音で流暢に語ってくれました。2 位の川津求君（国コミ）は、アメリカでのボランティア経験から、日米の労働スタイルの違いについて興味深い話をしてくれました。同じく 2 位の徳永隼人君（法）は、アメリカでの留学中に知り合った様々な国からの留学生との交流を生き生きと語ってくれました。

審査員のハミルトン、クサカ両先生方は、「発表者は全員、原稿を棒読みした人はおらず、英語は流暢だったが、特に個人的なエピソードや具体例などをもっと交えてくれるとさらに面白いスピーチになっていたでしょう」というコメントを述べられました。おしなべて抽象的になりがちな大学生のスピーチをユーモアのあるものにするために、貴重なアドバイスだったと思います。

もちろん、惜しくも入賞できなかった皆さんも、よく頑張ってくれたと思います。よろしければ、ぜひ再挑戦を！

（経済学部 三川克俊）